

令和3年度

第4回

関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時：令和4年3月11日（金）

13：30～15：00

場 所：関東森林管理局ほか  
（各委員の事務室等）

次 第

1 開 会

2 議 事

（1）木材の需給動向について

- ①木材の需給及び価格等の動向
- ②関東森林管理局における国有林材の供給状況
- ③各地域の木材需給動向について

（2）その他

3 閉 会

令和3年度 第4回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿
栃木県県東環境森林事務所 森林部長	川上 晴代
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域 領域長	久保山 裕史
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	福田 成芳

関東森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	山口 輝文
資源活用課長	森田 隆浩
企画官(木材需給対策)	畠山 幸樹
上席技術指導官(木材供給担当)	奥村 忠充
素材供給係長	齋藤 悠
供給計画係	濱砂 俊介

(別紙)

令和3年度 第4回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和4年3月11日(金) 13:30~15:30

関東森林管理局 3階小会議室及び各委員事務室等(書面及びWEB会議)

2 議題

(1) 各地域の木材需給動向

(2) その他

3 検討結果

各地域の木材需給の動向や各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点では、新たな供給調整は必要ないが、事業を確実に実施し、予定量を確実に供給していくとともに各地の木材需給状況、市況等を引き続き注視し、大きな動きがあれば臨時の供給調整検討委員会を含めて対応されたい。

4 概要(状況報告等)

(1) 各地域の木材需給動向について

- 原木の荷動きは良く販売量も増加しており、在庫量も増加しているが、製材品の荷動きは停滞。一般住宅向けの販売量は減少しているが、公共事業向けの販売量は増加しており、在庫量は変わらず。
- 原木の入荷は増加傾向で販売量も増加しているが、全般的に原木不足の傾向にある。木材価格は高値で推移しており、価格変動には落ち着きが見られる。杉・桧の価格差は縮小した。
- 原木の出荷は順調だが、2月は値下がり傾向。製材品の価格は1月から徐々に下がり始めており、2月はKD材の荷動きに停滞感が出ている。
- 原木の入荷量は多めで売行きも良く、荷動きは好調である。製材品は荷動きの良い商品と鈍化した商品とで二分してきている。ウッドショックで上昇した製材品価格は、調整局面に入り、今後の国産材価格は競合する外材製品と連動すると思われる。
- 原木については、入手が困難な工場や、調達価格を引き上げることで安定してきた工場など、様々である。原木・製材品ともに価格は上昇が続くと思われる。工場の稼働状況としては、春先から落ち着きそうなところと引き続き好調なところとで二極化してきている。
- 木材市場においては、1月からは入荷量が増加傾向だが、大径材の割合が増えてきている。落札率は依然として高い状況が続いている。価格は春に向けてやや落ちるものの、しばらくは大きく下落することはないと考えている。
- 原木の生産量を増やしているが依然として不足気味である。特に杉3m、4m柱・中目材は品物不足となっており価格も高値で推移している。今後、生産量は多くなる見込みだが需要に対しては、まだ品不足感が続くと思われる。

- 価格について、若干弱含んでいる樹材種もあるが、木材価格はそのまま推移するとの見方もある。
- 原木は、昨年から変わらず順調に入荷している。杉柱材は昨年12月頃に値を下げたが、今年になり持ち直してきている。一方で桧材は、柱・土台材が横ばいであり、中目材が下がっている。
- 杉原木価格の上昇は止まったものの高い水準を維持している。合単板用材価格の上昇は続いている。製材品では、欧州材の価格が高止まりしている一方、杉KD材の価格は下落に転じたように見える。
- 欧州材価格が高水準を維持していることから、当面は国産材価格も高水準を維持し、原木価格は大きくは下がらないと考える。合板用材の高水準の需要はしばらく継続すると見込まれる。

## (2) その他

- 国産材の安定供給には、サプライチェーンの再構築が必要である。
- 輸入材からの代替需要が定着するか不透明だが、輸入材の動向に左右されないためには山側の供給体制や工場の供給・ストック体制の整備が必要だと思われる。
- 現在の円滑な素材供給態勢を維持する必要があると考える。国産乾燥材の供給力向上が急務であると同時に、無垢製材の利用拡大に向けたJAS認証の普及や、横架材市場の獲得および生産拡大等の取り組みが必要と考える。
- 製材工場や木材市場など、それぞれがそれぞれの形でもう少し在庫を持てていれば、今回のウッドショックによる急激な価格の乱高下はなくてすんだのではないかと考えている。
- 伐出業者は、賃金の上昇を達成しなければ人が集まらなないと考えている。各企業の努力にとどまらず、様々な方面から賃金の上昇について取り組まなければならないと考える。